

1.5.3 商業・観光業

本町の農林業以外の産業では観光業が盛んです。町内には温泉地として国内外から多くの観光客に訪れていただいている**黒川温泉**を含む5つの温泉街があり、そば街道と呼ばれる沿道に連なる蕎麦の飲食店観光地、「熊本緑の百景」第1位に選ばれた**瀬の本高原**などがあります。

令和元年度の総観光客入込数は1,040,160人で、そのうち国外から訪れる観光客は86,994人と近年はインバウンド需要も特に高まっており、2023年にはBooking.comの「**Traveller Review Awards 2023**」にて日本で「最も居心地の良い場所」第1位にも選ばれるなど、訪れる方々からの高い評価を得ています。

新型コロナウイルスの影響で観光客は一時減少しましたが、最近ではコロナ禍前の状況に戻りつつあり、観光客の増加に伴って宿泊施設からの厨芥類をメタン発酵の原料として活用できる可能性は高く、バイオマス利用による地域の資源循環の構築や脱炭素化に寄与することが期待できます。



▲黒川温泉の露天風呂



▲竹飾りや灯籠の並ぶ黒川温泉湯あかり

図15 黒川温泉郷

出典：黒川温泉公式サイト(<https://www.kurokawaonsen.or.jp/about/>)



▲瀬の本高原から望む阿蘇山



▲野焼き前のススキの風景

図16 熊本緑の百景「瀬の本高原」

トピックス＜黒川温泉一帯地域コンポストプロジェクト＞

黒川温泉は、江戸時代中期には湯治の場として知られ、肥後細川藩の国境付近にあることから藩の役人が利用する「御客屋」と位置づけられていました。明治以降も湯治客向けの療養温泉として半農半宿の営みが続きましたが、1964年に「やまなみハイウェイ」が開通し一時的に観光客が増加しました。

しかしながら大型旅館のない黒川温泉はすぐに観光客が減少。先行きの見えない状況の中、1986年に旅館組合の組織を再編成し、沿道に乱立する各旅館や飲食店の看板を統一、殺風景だった温泉郷の景観を植樹などで美しくする取り組みに加え、黒川温泉すべての露天風呂で利用できる「入湯手形」を発行したところ、これらが評判となりメディアへ取り上げられ、「露天風呂の黒川温泉」として全国区の人気となりました。以降、年間100万人以上の観光客に訪れていただく温泉観光地となっています。

2020年9月から始めた堆肥事業「黒川温泉一帯地域コンポストプロジェクト」では、旅館から出る食料残渣や温泉街の落ち葉を活用して完熟堆肥を作り、その堆肥で農家に野菜を育ててもらい、できた野菜を旅館で仕入れ調理して宿泊客へ提供する一連の取り組みです。この取り組みにより、旅館から出る生ごみの焼却量を減らすことでCO₂排出量の削減を試みています。また環境への取り組みだけでなく、良質な堆肥から作られる豊かな土と南小国町の清らかな源流水の恵みを活かして、顔の見える地元農家の協力のもと安心安全で質の高い野菜を育てています。

また、この活動を伝えた動画は**サステナアワード2020**伝えたい日本の“サステナブル”にて、“環境省環境経済課長賞”を受賞しました。



▲コンポストプロジェクト紹介動画



▲間伐材を利用して作られる入湯手形



▲生ごみの堆肥づくり



▲旅館や農家との定期的な会合

図17 黒川温泉一帯地域コンポストプロジェクト

出典：黒川温泉公式サイト(<https://www.kurokawaonsen.or.jp/about/>)

1.6 再生可能エネルギー利用の取組

「**南小国町共有ビジョン**」で定める「再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現する里」と、「**第2期南小国町まち・ひと・しごと創生総合戦略**」で「【戦略6】木質バイオマスの活用や小水力発電等の再生可能エネルギーの導入、省エネ及びCO₂削減につながる動きを推進していく。」との方針に基づき、本地域の自然的特性を生かしたエネルギーや、再生可能エネルギーの利用促進に係る施策の推進を図ります。

本町の県内におけるエネルギー自給率の順位は45市町村中29位で、地域的自給率が31.1%、電力自給率5.8%、熱自給率62.8%となっています。この数値は実際の数値ではなく、理論値での算出です。（2018年度環境エネルギー政策研究所(ISEP)ホームページ掲載情報から）

再生可能エネルギー導入件数及び導入容量は、令和3年（2021年）3月時点で、太陽光発電が115件747kW。風力発電が1件3,400kW、水力発電、地熱発電は共に導入はありません。木質バイオマス発電については、平成29年（2017年）に1件50kWが導入されています。また、木質バイオマスの熱利用については58件803kWを導入しています。

平成20年度（2008年度）に「**南小国町地球温暖化防止実行計画**」を策定し、学校施設への木質ペレットストーブ導入や町民への啓発活動等により温室効果ガスの削減に取り組んできており、役場関連施設のCO₂排出量について、平成29年度には平成19年度（2007年度）と比較して14.6%の削減を達成しています。（温暖化防止実行計画に係るCO₂排出量調査結果から）

表5 本町における再生可能エネルギーの導入状況

エネルギーの種類		導入件数(件)	導入量(kW)	主な導入箇所	備考
太陽光発電		115	747	・公民館、学校等の公共施設 ・旅館、印刷会社等の事務所 ・一般家庭	資源エネルギー庁 HP「FIT 認定状況」
太陽熱		町内住家の5%程度			航空写真からの推計
風力発電		1	3400	阿蘇小国ウインドファーム	風力発電事業会社の2基
木質バイオマス	発電	1	50	・交流促進センター(温泉館きよう) ・町内小中学校 ・飲食店、旅館、一般家庭	事務所、一般家庭は補助金支給実績から把握 ※ペレットストーブ、薪ストーブ
	熱利用	58	803		

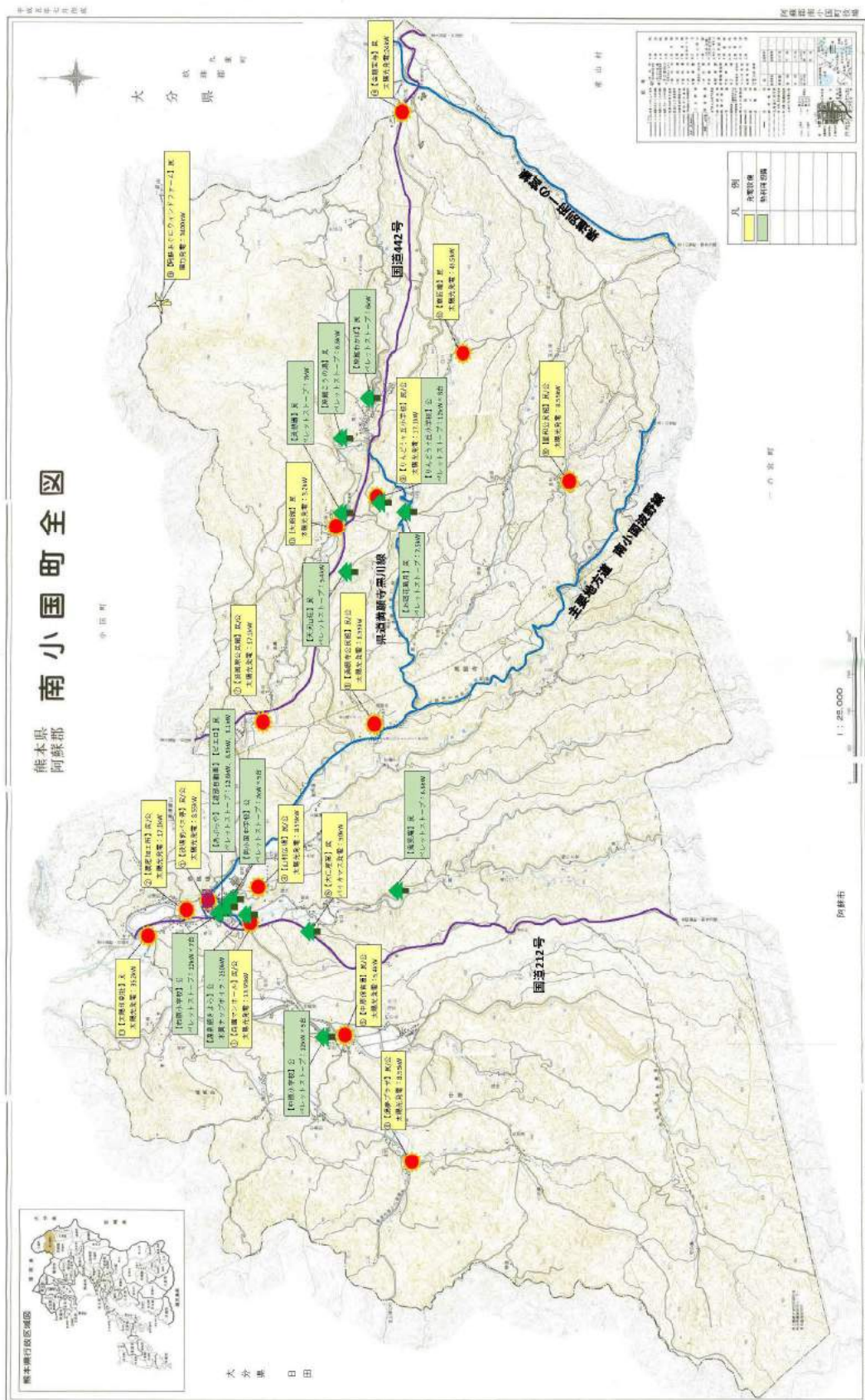


図 18 再生可能エネルギー関連設備の位置図

	整理番号 ①	太陽光発電 役所前バス停 設置場所 設置者 定格出力 発電実績 646kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ⑦	太陽光発電 渡島廣公民館 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 1,258kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ②	太陽光発電 町農産加工所 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 1,174kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ⑧	太陽光発電 海陽寺公民館 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 562kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ③	太陽光発電 海陽マホール(温泉施設敷地内) 設置場所 設置者 定格出力 13.95kW
	整理番号 ⑨	太陽光発電 りんどう丘小学校 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 1,101kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ④	太陽光発電 山村広場 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 541kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ⑩	太陽光発電 豊和公民館 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 619kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ⑤	太陽光発電 中居保育園 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 418kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ⑪	太陽光発電 太陽印刷社 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 35.2kW
	整理番号 ⑥	太陽光発電 港夢グラザ 設置場所 設置者 定格出力 月発電量 567kWh/月 (2019年平均)
	整理番号 ⑫	太陽光発電 大樹館 設置場所 設置者 定格出力 3.2kW